

# 親子ネット講演会

乳幼児の宿泊面会交流に関する最新情報

大正大学 青木 聡

[a\\_aoki@mail.tais.ac.jp](mailto:a_aoki@mail.tais.ac.jp)

# 面会交流が問題となりやすい事例

( 1 ) D V の事例

( 2 ) 片親疎外的事例

( 3 ) 乳幼児の事例                      今日の講演

Marsha Kline Pruett and J. Herbie DiFonzo (2014)  
“Closing the Gap: Research, Policy, Practice and  
Shared Parenting. AFCC Think Tank Final Report”  
Family Court Review 52(2) 145-151.

# 乳幼児の宿泊面会交流は必要か？

Warshak, R. A. (2014) “Social Science and Parenting Plans for Young Children: A Consensus Report” *Psychology, Public Policy, and Law*. 20(1) 46-67.

- 主要な先行研究（135論文）を検証した結果（メタ分析的な文献研究）、乳幼児の宿泊面会交流に反対する見解は支持されなかった。
- むしろ、父母双方との愛着形成の点で非常に重要！
- 110人の研究者・臨床家が賛同の署名。

# 文献（講演のネタ）

- Marsha Kline Pruett, Jennifer E. McIntosh, and Joan B. Kelly (2014) “Parental Separation and Overnight Care of Young Children, Part 1: Consensus through Theoretical and Empirical Integration” Family Court Review 52(2) 240-255.
- Jennifer E. McIntosh, Marsha Kline Pruett, and Joan B. Kelly (2014) “Parental Separation and Overnight Care of Young Children, Part 2: Putting Theory into Practice” Family Court Review 52(2) 256-262.

# 乳幼児の宿泊面会交流のポイント

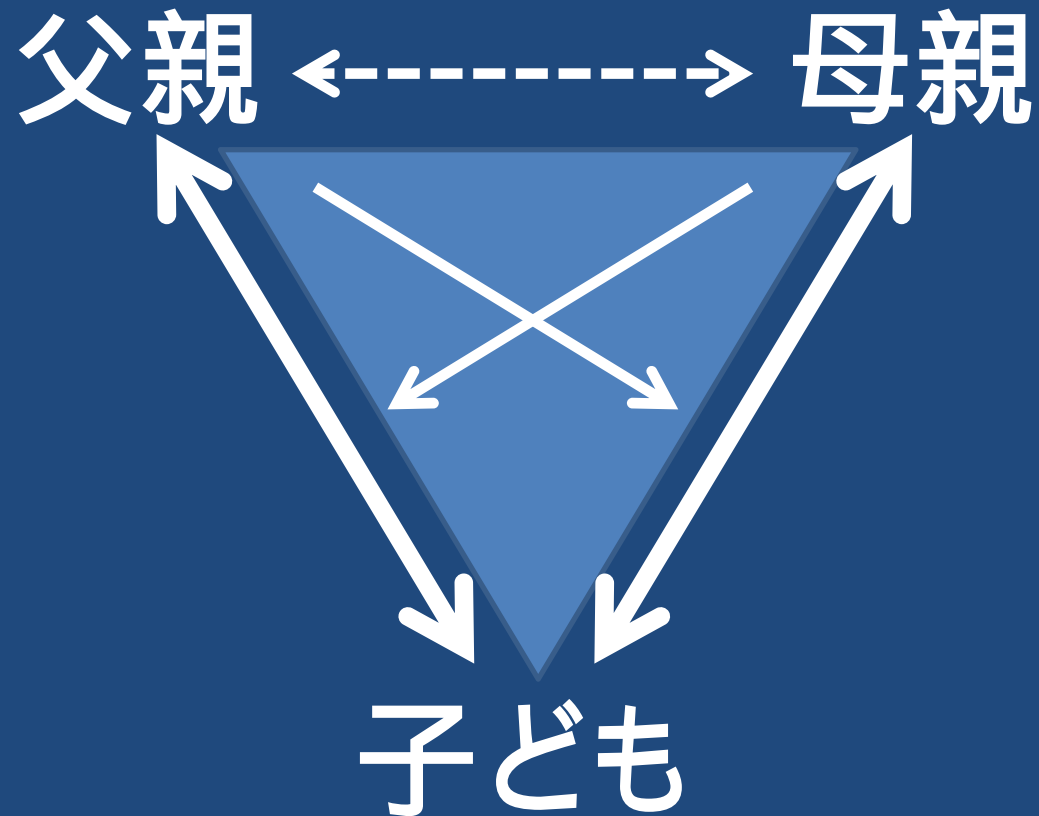
- 最善の目標は「三人組の安全基地」

父母双方との愛着形成を促進する共同養育環境

父母双方がもう片方の親の重要性を認識している関係性

乳幼児に限らず、面会交流全般に言える

# 三人組の安全基地 (triadic secure base)



# 宿泊面会交流の懸念要素

子どもが父母の衝突に頻繁にさらされる

子どもと別居親の関係が築けていない

父母が養育方法について合意していない

高頻度の宿泊面会交流スケジュールは  
好ましくないという研究あり

# 乳幼児期の宿泊面会交流を円滑に 実施するための決定的な要因

- 父母の精神的安定
- 父母の社会的資源
- 父母の関係性
- 別居以前の親子関係の質



# 乳幼児期の宿泊面会交流 検討事項 8項目

- 1 ) 安全
- 2 ) 両親に対する子どもの信頼感と安心感
- 3 ) 両親のメンタルヘルス
- 4 ) 健康と発達
- 5 ) 行動面の適応
- 6 ) 両親の協力関係
- 7 ) 宿泊の分担が可能か
- 8 ) 家族の要因

# 宿泊頻度のレベル

- 1 ) 稀 / 無
- 2 ) 低頻度の宿泊（月 1 ~ 4 回）
- 3 ) 高頻度の宿泊（月 5 回以上）

# 検討事項 1 安全

A ) 子どもが親に世話されているときに安全であること。

B ) 親がお互いに安全であること。

1 ) 稀 / 無 A あるいは B が「 × 」

2 ) 低頻度 A が「 」

B : 争いはあるが、脅迫や危険なし

3 ) 高頻度 A と B が「 」

## 検討事項2 両親に対する子どもの信頼感と安心感

子どもが、

A) 両親と(6ヵ月間以上の)信頼関係を続けている。

同居親がいないとき、子どもが、

B) 別居親に慰めや安らぎを求める。

C) 別居親に探索行動をサポートしてもらう。

- 1) 稀/無 AあるいはB & Cが「×」
- 2) 低頻度 Aが「」、B & Cが「」
- 3) 高頻度 A ~ Cが「」

## 検討事項 3 両親のメンタルヘルス

両親は、

- A ) 子どものニーズを認識する感受性を持つ。
- B ) ドラッグ / アルコールの問題がない。
- C ) メンタルヘルスの問題がない。

- 1 ) 稀 / 無    A ~ C が 「 × 」
- 2 ) 低頻度    A ~ C が 「    」
- 3 ) 高頻度    A ~ C が 「    」

# 検討事項 4 健康と発達

子どもは、

- A) 重要な発達上あるいは医療上のニーズを持つ。
- B) そのニーズは提案されたアレンジメントで十分にサポートされている。
- C) 乳児が母乳しか飲まず、哺乳瓶を受け入れない。

- 1) 稀 / 無     Aが「     」、Bが「×」；Cが「     」
- 2) 低頻度     Aそして / あるいはCが「×」；  
                  Aが「     」、Bが「     」 / 「     」
- 3) 高頻度     AそしてCが「×」；  
                  Aが「     」、しかしBが「     」

# 検討事項 5 行動面の適応

気質や発達段階と関連して、

子どもが以下の行動を持続的に示す（3～4週間以上）。

- A) 医学的原因なしに、怒りっぽく、頻繁に落ち着きがない。
- B) 分離に際して過剰にしがみつく。
- C) 頻繁に泣く、あるいは、その他の激しい興奮。
- D) 自傷行動を含む攻撃的行動。
- E) 確立された行動における退行（例；トイレ・食事・睡眠）。
- F) 遊びや学びにおいて忍耐力が低い。
- G) 上記の退行や困難は短時間で簡単に解決される。

- |          |                |            |
|----------|----------------|------------|
| 1) 稀 / 無 | A ~ F が 「    」 | G が 「 × 」  |
| 2) 低頻度   | A ~ F が 「    」 | G が 「    」 |
| 3) 高頻度   | A ~ F は 「 × 」  | G が 「    」 |

# 検討事項 6 両親の協力関係

両親は、

- A ) 子どもについて一緒に考え、礼儀正しく話し合うことができる。
- B ) 必要に応じて仲裁を利用しつつ、生じた対立を扱うことができる。
- C ) スケジュールを一貫して守るが、臨機応変に対応できる。
- D ) 子どもと相手方の関係性を尊重することができる。少なくとも容認することができる。
- E ) 時間 / 交流に関する自分自身の願望より、子どものニーズを重視することができる。
- F ) 子どもの受け渡しの際に、ストレスを与えないようにできる。

2 ) 低頻度 A ~ F が 「 」

3 ) 高頻度 A ~ F が 「 」



# 検討事項 7 宿泊の分担が可能か

両親は、

- A) (働いている時間以外の) 日中と宿泊時に、  
子どもの主な世話役になれる。
- B) お互いに通いやすい近所に住んでいる。
- C) 片方の親が子どもの宿泊時の世話をできない  
とき、もう片方の親による世話を優先する。

- 1) 稀 / 無    A ~ C が 「 × 」
- 2) 低頻度    A と B が 「    」、 C が 「    」
- 3) 高頻度    A ~ C が 「    」

## 検討事項 8 家族の要因

- A ) アレンジメントが以前の状態を反映している。  
そして / あるいは、年上のきょうだいと同じ宿泊スケジュールに参加することで、乳幼児の安心感の拠り所となっている。
- B ) 宿泊のアレンジメントが他の人間関係の維持に役立っている（例：祖父母）。そして / あるいは、それぞれの親の文化的ないし宗教的な慣習の重要な要素に触れることに役立っている。

- 2 ) 低頻度 可能であれば A が「     」 ; 子どもにとって B の重要性が「     」あるいは「     」
- 3 ) 高頻度 可能であれば A が「     」 ; B が「     」